

## ●早産・低出生体重児

妊娠期間が37週0日から41週6日の間に生まれた赤ちゃんを「正期産児」といいますが、36週6日より前に生まれた場合に「早産児」と呼びます。また、出生体重での分類もあり、2500g未満で生まれた赤ちゃんを「低出生体重児」といい、その中でも1500g未満を「極低出生体重児」、1000g未満を「超低出生体重児」といいます。

日本では新生児の約6%が早産児、約10%が低出生体重児です。早産児は脳や目、肺、腎臓、骨、腸などの諸臓器が発達し、妊娠後期に栄養を蓄積する前に生まれるため、呼吸・循環・栄養などに配慮が必要です。黄疸や貧血、無呼吸発作、壊死性腸炎、骨塩量の低下（未熟児代謝性骨疾患）、未熟網膜症、脳室周囲白質軟化症などの合併症が知られています。必要に応じて強化した母乳での栄養を行うことによってこれらの合併症のリスクを下げることができます。早産で入院した赤ちゃんにはできるかぎり母乳栄養を行えるように産科施設のスタッフと協力しています。